

皆さんのエコ活動を応援します！

相模原市立環境情報センター

環境情報センターでは、環境にやさしいさまざまな取り組みを行っています。今回は環境情報センター内の設備についてご紹介します。

1階

- 太陽光発電 (3.0kW)**
作られた電気は施設の中で使われているよ！
- 環境情報コーナー**
環境のことならなんでも相談してね！
- エコギャラリー**
環境に関する本や資料があります。本の貸出しもしているよ！
- 事務室**
- みどりのカーテン**
夏の暑い日差しを和らげ、すずしくしてくれるよ！
- 緑化駐車場**
シバとタマリユウを植えて、ヒートアイランド現象による気温上昇をおさえます。
- 小規模雨水貯留タンク**
雨水をためて植木の水やりに使います。
- 電気自動車**
CO₂の排出が少なく、空気を汚しません。
- 図書コーナー**
環境に関する本や資料があります。本の貸出しもしているよ！
- 森から来たつくえといす**
森林を守ることに役立ちます。

2階

- 活動室**
- 学習室**
- 休憩コーナー**
利用してね！

2階のお部屋は、貸出しをしたり、環境の勉強が出来る講座を行っています。

環境情報センター NEWS



平成 25 年 1 月 1 日発行

発行：相模原市立環境情報センター

指定管理者
NPO 法人さがみはら環境活動ネットワーク会議

きのき ちきゅう おんだんか しのびよる危機 地球温暖化



シロクマは地球上で一番寒い地域に住む、最大の肉食動物です。天敵は人間だけ。そんなシロクマが今、絶滅の危機をむかえています。氷の上でかりをするシロクマは、北極の氷がへったため、かりをする場所が少なくなり、主食であるアザラシをつかまえることがむずかしくなりました。何も食べることが出来ず、うえて死んでいくシロクマが、今日も北極のどこかにいるのかもしれない。

© Steve Morello / WWF-Canon

多くの生きものが絶滅している現代 — 原因は地球温暖化？

わたしたちの足元には目に見えない小さな生きものがいます。耳をすますと鳥の鳴き声が聞こえます。また緑の中には、たくさんの動物やこん虫たちが見られます。そしてわたしたち人間は、その地球上にすむすべての生きものたちに、支えられて生活しています。

その生きものたちが、今、大量に絶滅しています。約 6500 万年前、白亜紀後半の恐竜の絶滅が 1 年に 10 ~ 100 種程度だったことに比べると、現在は



1 年間に 4 万種が絶滅しているともいわれ、大きな問題となっています。現代の大量絶滅の原因はさまざまですが、地球温暖化がその一つといわれています。地球温暖化はたがいには、ささえあう自然のバランスをくずし、生きものたちのすみかや食物をうばっています。地球温暖化の原因は何なのでしょう。この地球で、今、何が起きているのでしょうか。

さがみエコはらなかま

Forest Nova ☆ [フォレストノバ]
「森と人が、親しみ合える社会をめざしていきたい」

『フォレストノバ』は、森を整びて守る活動をしている団体です。登録しているのは、麻布大学を中心に、日本大学や明治大学など 8 つの大学の学生や卒業生、そして一般の人たち約 60 名です。

毎月第 1 日曜日と、第 3 日曜日に、JR「相模湖駅」近くにある 1 万 m² ほどの森を整びています。そこは、以前は自然の森でしたが、数十年前に建ちく用の木材になる木をたくさん植えた人工林になりました。ところが、外国から安い木材が買われ、国産の木材は売れなくなり、手入れをする人がいなくなりました。日本にはそういった森がたくさんあります。



↑切った木を木材にします

『フォレストノバ』のメンバーは、7 年ほど前から森の整備を始め、今では下草の生えた明るい森になったそうです。代表の瀬戸さんは「この森に行くと、とても気持ちが良く、いろいろな生き物がいて楽しいです」と話してくれました。森を守るためには、森を知り、興味をもち、そして国産の木材を使うことが大切だそうです。『フォレストノバ』では、活動に参加する人を募集しています。Eメールでお問い合わせください。



↑森を知ってもらう活動です



↑左から
望月 亜佑子さん [獣医学部 動物応用科学科]
瀬戸 智大さん [生命環境科学部 環境科学科]
浅野 雅樹さん [獣医学部 動物応用科学科]

ホームページ
<http://forestnova.web.fc2.com/>
Eメール
forestnova_info@yahoo.co.jp

相模原市立環境情報センター

〒252-0236
相模原市中央区富士見 1 丁目 3 番 4 1 号
TEL. 042-769-9248 FAX. 042-751-2036

- Eメール kankyo@eic-sagamihara.jp
- ホームページ <http://www.eic-sagamihara.jp/>
- 開所時間 午前 9 時～午後 5 時
- 休所日 毎月第 3 木曜日、年末年始、施設点検日



交通

- JR 相模原駅から
 - ① 徒歩約 20 分
 - ② バス「市役所前」下車徒歩 1 分
「ウェルネスさがみはら前」下車すぐ
- JR 上溝駅から
 - ① バス「市役所前」下車徒歩 1 分

なるべく公共の交通機関をご利用ください。



森の町内会
間伐に寄与する紙

この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に使われています。

センターニュース冬号はいかがでしたか？
みなさまのご意見ご感想をお寄せください。お待ちしております

地球温暖化の原因と影響

地球温暖化は生きものたちの命をおびやかしています。そして世界中にさまざまな影響をあたえています。

地球温暖化とは…



ガラスやビニールでまわりをおおい、太陽光の熱をとじこめ、あたたかくして花や野菜を育てる「温室」。地球もうすい大気に包まれた温室のようなものです。大気中にふくまれる二酸化炭素やメタンなどは熱を吸収する性質があり、「温室効果ガス」とよばれます。温室効果ガスが太陽からの熱の一部を吸収して外に出さないようにすることで、地球は平均して1.5℃という、動植物が生きるのにちょうどいい気温でもたれてきました。

ところが今は温室効果ガス、特に二酸化炭素がふえすぎて、大気中に熱がこもり、100年前にくらべて平均気温は0.74℃上がっています。

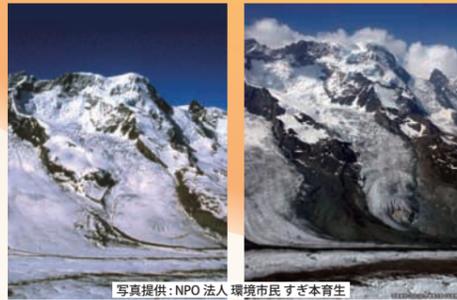
これが地球温暖化です。

二酸化炭素は石炭や石油、天然ガスなどの化石燃料をもやすと発生します。わたしたちが毎日使う電気は、たくさんの化石燃料を燃やして作られます。また台所でガスを燃やしたり、自動車でもガソリンを使ったりしても、二酸化炭素が発生します。人間の活動が二酸化炭素をふやし、地球温暖化を引き起こしています。



CO₂=二酸化炭素

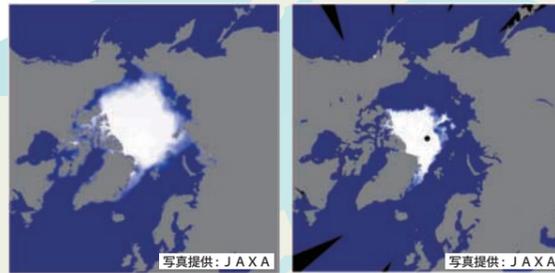
氷河がとけていく



ブライトホルン近くの氷河 左は1984年6月、右は2006年6月24日に撮影

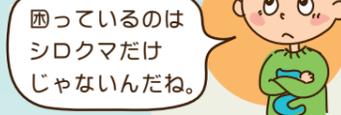
高い山では氷河が速くとけるようになり、スイスでは15年間で全氷河の4分の1がなくなりました。また、短い時間に多くの氷河がとけると、大きい水たまりのような氷河ダムができます。氷河ダムがあふれて鉄砲水や土石流がおこり、下流にある家屋が流されるなどのひがいが出ている地域もあります。

北極の氷が小さくなっている

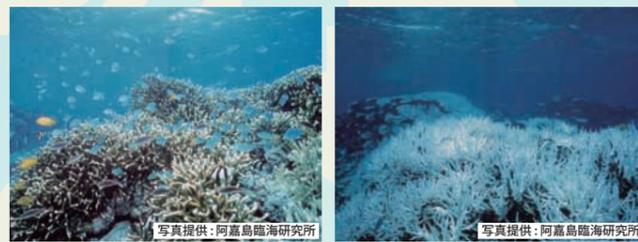


9月の平均。左は1980年代、右は2012年に撮影

北極や南極は、特に温暖化の影響を強くうけます。今、北極の氷は1980年代の半以下になってしまいました。また氷がうすくなったため、大人になる前に海に落ちて死んでしまうアザラシがふえています。



サンゴが死んでいく



沖縄県慶良間列島阿嘉島周辺のサンゴ礁 左は1994年、右は1998年に撮影

サンゴの体の中には酸素を作ってくれる渦虫藻という藻類の仲間が住んでいます。水温が上がると渦虫藻は酸素を作れなくなり、サンゴは死んでしまいます。サンゴが死ぬことで、サンゴをえさ場やすみかとして使っていた生きものはなくなっていきます。

そのほかにも…

温暖化が進むと、気温の高い地域にしか生きられなかった蚊が、マラリアや西ナイル熱などといったおそろしい病気を私たちのところに運んで来たり、作物が育ちにくい環境がふえ、水や食料がたりなくなることが予想されています。



砂ばくが広がっている



雨が少なくなった地域では、土地が乾燥し植物が育ちません。はだかになった土は、水をためておく力が失われてしまいます。焼き畑農業や、はくばくから起こる酸性雨なども砂ばくが広がる原因といわれています。

写真提供: 緑のサヘル

台風が大きくなっている



熱帯地域では海水の温度が上がったため、たくさん水蒸気ができて台風が大きくなり、世界中で洪水や高潮のひがいがふえています。

写真提供: Aki Soeda

日本にも大きな台風がきたよね。



海面があがっている



氷河がとけ、温められた海水がふくらむことで、海面が上がってしまいます。特に標高の低い土地が多い島国は、陸地が少なくなり人間が生活できる場所が失われます。また高潮がふえ、動植物たちへの影響も深刻です。

ツバル、フナフチ島(環礁の上の民家) 2006年

環境のちよこつと話 No.18

「セミの大合唱！ 主役はだあれ？」

関東の代表的セミといえば、「ミーンミン」とその名の通りに鳴くミンミンゼミと茶色い羽のアブラゼミの2種類でしょうか。一方、「シャンシャンシャン」と鳴く大きな体のクマゼミは九州の代表的なセミです。

ところが最近、小田原市や茅ヶ崎市ではクマゼミの大合唱が話題となり、ぬけがらが見つかりました。また、相模原市でも鳴き声が聞こえるようになりました。

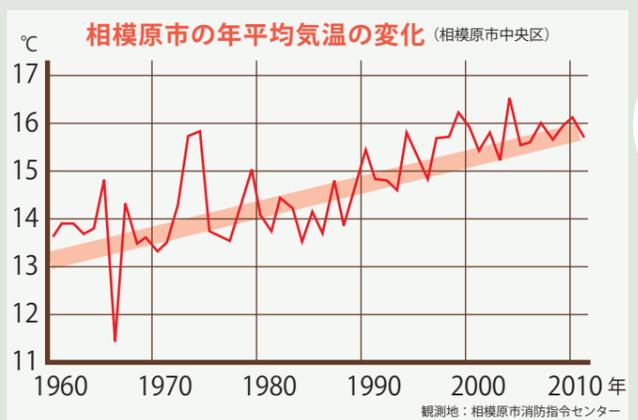
地球温暖化やヒートアイランド現象などにより町の温度が上がったことで、暖かい地方にいたクマゼミが北に広がって来ているようです。クマゼミがふえることで、もともと住んでいたセミや他の生きものに影響が出ることも心配です。これからもクマゼミがふえ続けると、夏の風物詩であるセミの鳴き声が「ミーンミン」から「シャンシャンシャン」にかわってしまうかもしれませんね。



相模原の気温を見てみよう

相模原市の50年間の気温をみると、相模原市中央区の平均気温は2℃、最低気温は3℃近く上がっています。これは、ヒートアイランド現象*の影響もありますが、世界の平均を上回っています。雪がつかえることが少なくなったり、夏、暑くてねむれない日がふえたり。また、昔の相模原ではみられなかった植物やこん虫が見られるようになったなど、私たちのまわりでも変化がおこっています。おじいちゃんやおばあちゃんに50年前の相模原の様子を聞いて、今とのちがいをさがしてみよう。

*ヒートアイランド現象とは…自動車やエアコンを使ったときに出る熱や、高層ビルなど密集した建物により風通しが悪いこと、またコンクリートやアスファルトでおおわれることが原因で、都市の中心部の気温が郊外とくらべて高くなること。



調べてみよう

- 資料提供
 - 世界自然保護基金 (WWF) 地球温暖化防止や有害化学物質の排出削減、使用規制など、世界100ヶ国以上で活動している環境保全団体。
 - 全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) 地球温暖化対策に関する普及啓発を行うことにより、地球温暖化防止に関する活動の促進をしています。
- 書籍 環境情報センターの図書コーナーにあります。
 - ① 「しろくまのこえ」 伊藤年一著 樹幻冬舎エデュケーション刊
 - ② 「温暖化の世界地図」 近藤洋輝 訳 丸善(株)刊